

# 街

支部だより 2017. No. 2

石狩市立南線小学校4年  
首藤 綾花ちゃん  
(首藤 一弘氏 長女)



北海道建築士会札幌支部

# 特集「第42回北海道建築士会全道大会（後志大会）」

去る9月30日、倶知安・ニセコエリアにて307名の参加のもと、第42回北海道建築士会全道大会・後志大会が開催されました。9月29日は青年サミット、9月30日は3つの分科会と式典、高野誠鮮（たかのじょうせん）氏を招いての基調講演が開催されました。また、その翌日には女性建築士の集いとしてニセコエリアの見学会も行われました。海外からも脚光を浴びる倶知安・ニセコエリアですが、今回は北海道らしい旧でんぶん工場や倉庫群での分科会で「残し活用する」事の大切さと同時に、「くっちゃん型住宅」として風土から生まれ発展してきた暮らし等、大会サブテーマの「共生と連携のまちづくり」にふさわしい大会の様子を紹介させていただきます。

## A分科会：女性委員会

# テーマ 町 の 原 風 景 へ 「くっちゃん型住宅」 官民連携の取組み

新 海 直 美

全道大会分科会で、女性委員会はここ数年「素材」をテーマにしてきましたが、今年は大会のサブテーマである「共生と連携のまちづくり」をキーワードに、街をつくる素材としての「家」にフォー

カスをする形で「くっちゃん型住宅」について取り上げました。

「くっちゃん型住宅」は、将来にわたり倶知安町の原風景としてふさわしい住宅ストックになる



A分科会会場「倶知安風土館」



分科会風景



分科会風景

ように、住宅の基本性能を北方型住宅をベースにして、木材などの自然素材を積極的に活用し、冬の快適な生活を優先的に考えると共に羊蹄山やニセコの眺望を生活の一部とし、夏の緑豊かな自然を享受できることを目指してガイドラインが設けられています。そこで、この取り組みに携わった倶知安町役場建設課住宅係の河野稔さん、エスワーク建築設計事務所代表の佐藤裕さんをお招きし、ガイドラインの作成に至るまでの経緯や現状などについてお話を伺いました。

はじめは平成6年。「HOPE計画」として「倶知安型住宅」の基準が作られました。倶知安は昭和45年には積雪量が312cmにもなったという豪雪地帯です。当初はその環境に合わせ高床としたり、雪が自然に落ちる落雪屋根なども基準として設けられていたそうです。しかしながら、高床はバリアフリーなどの問題があることが分かったこと、落雪屋根は敷地を確保することが難しいことなどから見直され、時代と共に省エネや断熱、バリアフリー基準などが設けられ、現在の「くっ

ちゃん型住宅」になっていったことなど、皆さんが色々苦心されガイドラインが作られていった様子を伺うことができました。また、現在でも、外観に使用する木材のメンテナンスなど検討しなければならないこともあるとのこと、新しい素材や住まい方についてこれからもアンケート等をもって見直しなどを続けていきたいとのことでした。おふたりのお話を伺っていると、官民連携という固い言葉の印象ではなく、必然的に皆が力を合わせてこの基準が作られていった様子が伺え、それがとても良いなと思いました。

意見交換の時間では、会場から道内各地で地元の木材が使われている取り組みや、函館での空き家対策調査のお話しなど、地域での活動の様子も伺うことができました。

後半に実際に建てられた「くっちゃん型住宅」を見学しました。地域材が使われている様子、堆雪スペースや駐車スペース、エントランスが特徴的に計画されている様子などを見ることができ、前半のお話をより深く理解することができました。



コメントーターの佐藤氏（右）と河野氏（左）



分科会風景



くっちゃん型住宅見学



現場見学

## B分科会：まちづくり委員会

# テーマ「歴史的建造物の再生と ニセコエリアのまちづくりを学ぶ」

安達 あけみ

B分科会は、10時20分からのバスによる見学から始まりました。倶知安駅前ではバスの中から、ヒラフ地区ではバスを降りての見学でした。ヒラフ地区は近年、外国人が増え、コンドミニアムやホテルが続々建設され、驚くほど変化しています。そのせいか、私が担当したホテルの温泉施設は解体され、新たな建物が作られていました。（3年ほどで解体されたようで、無念です）



ヒラフ地区ではバスを降りての見学  
ここに温泉施設を建てたはず…



分科会会場の石蔵倉庫

バスツアーのラストは、JRニセコ駅に近いニセコ中央倉庫群です。公園や建物の前にはハウィンの飾り、カボチャがいたる所で飾られていました。飾るのはボランティアのメンバー、大小揃え



倉庫群の中にある「旧でんぶん工場」内部



「旧でんぶん工場」の面影を残すローラー

全個数2000個ほどの事でした。

倉庫群の中にある「旧でんぶん工場」は平成27年度に改修工事を経て、現在はニセコらしさを発信する活動の核として運用されています。分科会は倉庫群の1号倉庫（石造ですが、軟石の産地は不明）で、昼食後に分科会はスタートしました。

針ヶ谷委員長のあいさつの後、「ニセコ中央倉庫群 歴史的構造物利活用事例」について、ニセコ中央倉庫群館長の向田薫氏から、お話を伺いました。向田氏は、北海道ヘリテージ・マネージャーおよびヘリテージ・コーディネーターの育成講座\*1の第一期生です。ニセコ駅周辺はかつて羊蹄



パネルディスカッション風景



左からニセコ中央倉庫群館長の向井氏、(株)ニセコリゾート観光協会国際交流員のエマヌエル氏、横関建設工業(株)の柏谷社長

山麓の農作物集積場として、倉庫が建ち並び活気溢れる場所であったそうです。これからは地域コミュニティの拠点として、人が集い新しい繋がりから賑わいを取り戻したいと、お話を伺いました。ニセコ中央倉庫群は、そんな向田氏達の情熱で存続が決まったとの事です。

講演後は休憩をはさみ、横関建設工業(株)代表取締役社長の柏谷匡胤氏、(株)ニセコリゾート観光協会国際交流員のノイバウア・エマヌエル氏、ニセコ中央倉庫群館長の向田氏の3名のパネラーと道本部まちづくり委員の山田氏によるディスカッションが始まりました。

3名の共通意識は、まちづくりは人づくりと考えている事です。全員が様々な活動を通して、ニセコの魅力を発信しています。今後は民間と行政が手を携え、一つの町だけでは無いニセコ広域エ

リア<sup>※2</sup>とした「後志ブランド」を創設し、世界発信をして行きたいとの事です。

これからは自分たちも、歴史的建造物の再生を考えて行きたいと考えた分科会でした。

※1 ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座  
歴史的建造物や、歴史的地域資産の散逸・取壊しを防ぐために、保存活用の知識を学び、演習で実践的訓練を経験するカリキュラムによる専門家を育成する講座。

※2 ニセコ広域エリア  
倶知安町、ニセコ町、蘭越町、喜茂別町の、ニセコ連山の主峰「ニセコアンヌプリ」や、蝦夷富士と呼ばれる「羊蹄山」を望む、豊かな自然に恵まれたエリア。



羊蹄山

## C分科会：青年委員会

# テーマ「新幹線が夢を運ぶ!! 倶知安のまちを 考えよう～2nd Step～」に参加して

札幌支部 青年委員会 多田 幸

大会前日の9月29日、女心はどこへやら…といった、青年委員の私たち女性3名は、天候が心配な秋空の中、車に乗り合わせて大会開催地の倶知安、ニセコ方面へ出発しました。ニセコで他のメンバーと合流し「ニセコ中央倉庫群」の見学と前夜祭の「青年サミット」へも参加しました。

「ニセコ中央倉庫群」では、施設の館長であるNPO法人ニセコ倉庫邑 向田薫さんより館長に就任した経緯と現在の活用状況のお話を聞かせて頂きました。

札幌出身の向田さんは建築系の学科を卒業した後、古建築への興味関心から京都で寺社の設計を行っている会社へ就職しました。京都で数年間勤務した後、北海道へ戻りました。その後ご主人の転職を機にニセコ町へ移住し、旧でんぶん工場や農業倉庫「(現)ニセコ中央倉庫群」と出会い、古い倉庫群をなんとか活用できないかという考えが沸き起りました。倉庫群の活用業務に、町の嘱託職員として携わり、改修後に建物の指定管理者を選定するに時には「自分以上にこの建物を愛してくれる人はいない」と、NPO法人を設立し館長に名乗りを上げたとの事です。

熱心に話す向田さんのお話を伺うと、人柄が人を引き付ける力や説得力に繋がったのだと感じました。現在の活用状況は、フリースペースとしての利用はもちろん、地元の温泉に関連した催しなどにも使用しており、繰り返し足を運んでもらえる様に心がけて運営をしていると話されていました。【写真-1】

その晩は「青年サミット」に参加しました。「サミット」と名前こそ固い表現になっていますが道内各地の会員が集まる交流会の場として楽しく過ごす事ができました。

一夜明けて大会当日は、C分科会に参加しました。【写真-2】

倶知安町では2030年の北海道新幹線札幌延伸に伴い、新幹線駅が建設予定で、将来へ向けてまちづくりの検討を行っています。C分科会は全道大会を倶知安で開催するにあたり、私たちなりの提案を検討するワークショップ形式で行われました。

今回は、倶知安町民の方々も参加し1テーブル8名程度の10グループに分かれ、テーブルを囲んで倶知安駅前の石蔵倉庫の活用について話し合いました。

ワークショップの流れを簡単に紹介します。

- ① 倶知安町民の方々から地元の情報や問題点、要望、意見等を聞く。
- ② 検討する建物の用途は、商業施設、多目的施設、文教施設、公共施設、子供向け施設の5つの建物用途からテーブル毎に1つ与えられる。
- ③ テーブル毎に基本の考え、コンセプトについて話し合う
- ④ 大まかな平面ゾーニング、イメージスケッチに表現する

「石蔵」というと、前日見学した「ニセコ中央倉庫群」を思い出してしまいましたが、頭をひねりアイデアを出し合いました。私が参加したグループでは、

- ① ヒアリングでは、「駅前には温泉がないので便利な場所に欲しい」という意見で温浴施設(スーパー銭湯や足湯など)、カフェ、カルチャーセンターとしての用途も含むチャレンジショップ、子供が安心して遊べる場所、夜間街灯が暗い等のキーワードが出ていました。

【写真-3】

- ② 建物用途は「商業施設」が与えられました。

【写真-4】

③ 話し合いの結果は、名付けて” くっちゃん石  
Goo～ランド（いしぐぅ～らんど）「温浴施設  
を中心とした複合商業施設」を提案しました。

④ 平面ゾーニング【写真－5】、イメージスケッチ  
【写真－6】

1時間15分の限られた時間で、意見をまとめ、  
平面ゾーニング、イメージスケッチを仕上げ、  
グループ毎の発表となりました。短時間でわかりや  
すく表現するのは難しいものでしたが、各グル  
ープそれぞれユニークな内容が盛り込まれた提案発  
表となりました。【写真－7】

分科会の最後に（公社）日本建築士会連合会青  
年委員長の安田和人さんより、全道各地から集まっ

た建築士会会員が、地元の方々の協力を得て膝を  
突きあわせてテーブルを囲み、意見交換ができた  
事が何より素晴らしかったとの総評の言葉を頂き  
閉会となりました。

今回の全道大会で、同世代女性である向田さん  
のお話を伺い、倶知安町民の方々と交えたワーク  
ショップに参加して、人の協力を得なければでき  
ない仕事をするにあたって必要な事について考え  
させられるものがありました。

また建築士会活動では「仲間づくり」がテーマ  
のひとつとなっており、今後も気軽に色々な行事  
に参加して自分なりに成長できればと思います。



写真－1 ニセコ中央倉庫群で向田さんの説明



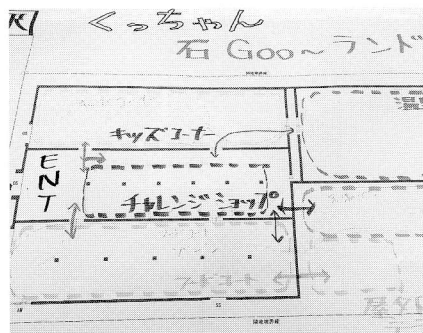
写真－2 会場の倶知安町文化福祉センター



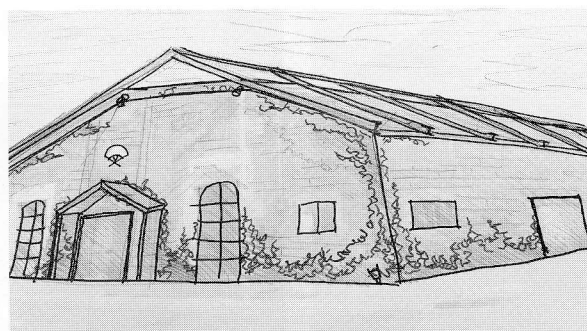
写真－3 ヒアリングの様子



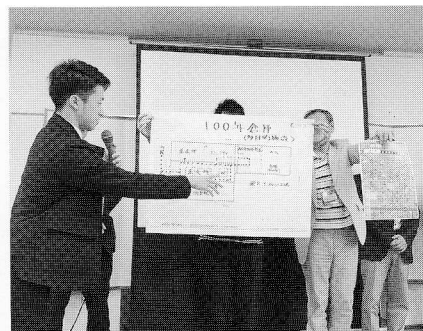
写真－4 建物用途発表



写真－5 平面ゾーニング



写真－6 イメージスケッチ



写真－7 他グループの提案発表

# 女性建築士の集い in ニセコ に参加して

鈴木彩恵

全道大会の翌日、10月1日 日曜日、絵に書いたような秋晴れの中、今年の“集い”が始まりました。私は道女性委員として企画から参加しました。今回は見学先が点在しているので、バス旅です。小さいバスですがプチ旅行気分が期待が高まります。

1つ目の見学先はニセコ中央倉庫群です。解説は、全道大会の分科会に引き続き、ニセコ倉庫島の館長・向田薫さんをお願いしました。

ニセコ駅周辺には、大正から昭和にかけて、羊蹄山麓の農作物の集積場として多くの石造り倉庫やでんぶん工場などが建ち並んでいました。ニセコ中央倉庫群は、現在も残る数少ない産業遺産として、後世に継承し、地域活性化に活用することを目的としているそうです。旧でんぶん工場は昭和32年に建てられたもので構造補強工事などを終

了し、普段はフリースペースとして使われています。広々として明るくとても居心地のいい空間です。梁の上に設置されている大きな粉挽きの機械も目を惹きますが、館長の壁の色のお話も心を惹かれました。当時モダンな建物だったこの工場はアイベストグリーンという淡いグリーンを壁の色に採用したのだそうです。目に良い色とされていたそうです。緑とわからないほどの柔らかい色が、この場所を工場だったと思えないような穏やかな空間にしているのかもしれませんが。

1号倉庫は昭和6年に建設されました。こちらはライブや映画上映などが行われる設備が整っているとの事で、構造体むき出しの荒々しい感じが印象的です。石造りの倉庫は入口の妻側側面だけなぜか少し緑色に見えます。よく見ると“ニセコ農業倉庫”と貼られた文字の下に“狩太農業倉庫”



旧でんぶん工場にて



模型で説明して下さる向田館長



旧でんぶん工場前にて



粉ひき機



1号倉庫前の文字が薄っすら



ばあちゃんちにて



という字が、1号の“1”の下に“2”という数字が薄っすら見えます。名称が変わった時、文字を隠すように色を塗ったのではないかとされているそうです。こういう歴史を感じる建物で上演するライブは一味違うのではないのでしょうか。

旧でんぶん工場で集合写真を撮った後、2つ目の見学先は“ばあちゃんち”です。倉本龍彦先生と奥様にお出迎えして頂きました。

とても暖かい日ではありましたが、住宅ですか？と、確認したくなるほど全体が開放的でした。現在は元々のプランから大きく改修しているとの事でしたが、随所に遊びやこだわりがあふれていた素敵な建物でした。斜めの建物の背中は雪が勝手に落ちるように、玄関は雪がたまらないように、大きく建物をかぶせて斜めの家になっています。1階は外部のような土間空間にゆったり外向きのロッキングチェア。訪れる人をゆらゆら眺めてるようなイスです。2階の小さな跳ね出しには一人掛けのリクライニングの籐椅子が置かれてました。不思議な浮遊感に誘われて、座らせて頂きましたが、怖かったです。折角なのでそこからの眺めを写真に納めたつもりでしたが、撮れてませんでした。余程ビビっていたようです。落ちなくてよかったです。3階のソファに座ると空が見えます。ずーっ

と座っていたくなる包み込まれるようなソファでした。すべての階に外に向かうイスがありました。ハンドメイド家具などのいろいろなアイデアも素敵すぎて、ニセコのこの場所に建ってる事を存分に楽しむ事ができる小さな家でした。

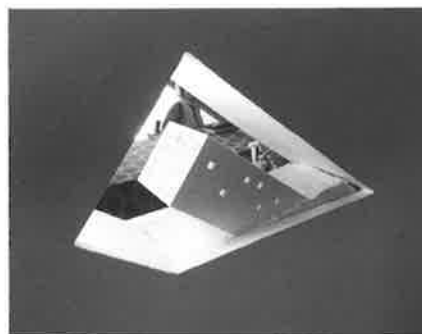
羊蹄山が美しくみえる丘のミルク工房で一休みの後は、最後の見学場所、ヒラフの別荘群です。ひらふ十字街の道道の坂下方面を散策しました。羨ましきラグジュアリー別荘地帯。どんな方が持ってらっしゃるのでしょうか？羨ましい…羨ましいのですが、日頃の運動不足がたたり、素敵っ！と、思うより、坂が堪えてくったりしてしまいました。

食前の運動を終え、週末は行列必死のヴィラ・ルピシアでランチの時間です。こちらはアンパンマンミュージアムなどを手掛けた古谷誠章氏の設計で、木造の大空間が落ち着きを感じさせます。メイン料理の他はビュッフェスタイルでみんなテーブルいっぱいにお皿を並べて楽しい時間を過ごしました。デザートもずいぶん頂きましたね。おなかいっぱい幸せ気分で、解散です。ニセコのバス旅が終わりました。

天気がよくて快適でしたね。みなさまお疲れ様でした。



「ばあちゃんち」3階の空観るソファ



「ばあちゃんち」手すり壁に「模型」



ヒラフのラグジュアリーな別荘地帯



「ばあちゃんち」奥様の解説に興味津々



ランチ！



ニセコ駅

## 気になる建物紹介し隊

# 軟石や

Nansekiya

情報委員 柳山美保子

札幌軟石の建物は以前から何度も取り上げてきましたが、今回気になったのは軟石で作られたかわいい雑貨たちです。三角屋根に色を塗った、なんとも癒されるかわいい家を紹介します。

工房兼ギャラリーとして2015年8月12日にopenした「軟石や」さん。ユニークで魅力的な作品を見に、アトリエにお邪魔しました。

代表の小原恵さんは、石山にある石材店に勤めていた時、札幌軟石の魅力にはまり、もっと札幌軟石のことを知ってほしいと思い、小物を作り始めたのがきっかけだそうです。

ちいさな家はそのままだ置いても十分かわいいのですが、人気商品の「かおるいえ」はアロマオイルを数滴つけると、軟石がオイルを吸収して数日香りを楽しめます。三角屋根の色は、「札幌景観

色」の色彩基準70色から使用しています。他にも寄せ植えした鉢、表札、マグネットなど、アトリエの中はおしゃれでかわいい小物たちでいっぱいです。

軟石は石材店で出た端材を利用しています。細長い軟石を家の形にし、金太郎飴のようにカットした後に、丸窓やRの入り口などの加工をします。水分を飛ばすためにストーブの上で網焼きのように置いて弱火でじっくりゆっくり時間をかけて乾燥させます。真夏のストーブは過酷な時間ですが、ここは大切な工程なので仕方ありません。そして絵柄を付けます。軟石の建物を再現した石蔵風、無垢積みのもや、妻飾りのある北欧風の家や教会など、デザインも豊富です。

9



軟石や 外観



軟石建物ミニチュア



ギャラリー内



代表の小原氏（右）

札幌軟石の魅力の可能性を広めるには、いろいろな人とのつながりから得たアイデアを形にしていきたいと小原さんは言います。いろいろな意見をもらって様々なコラボ商品も手掛けています。

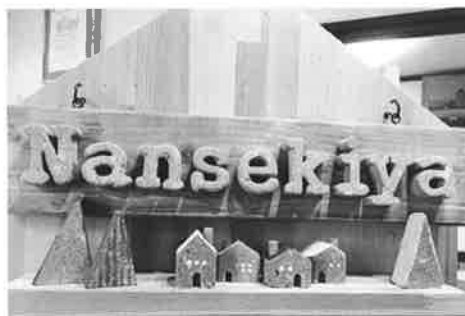
大学生がデザインしたものを商品化に向けて取り組んだり、小原さんがクライアントの立場でサポートしてきました。また、子ども向けのワークショップにも軟石を使ったものづくりのアイデアを取り入れているそうです。子どもたちに身近な素材を組み合わせる楽しさを知ってほしいという思いから、実際に軟石に触れて、親しんでもらうきっかけづくりにも積極的です。

札幌市内でのショップは、近代美術館ミュージアムショップ、東急ハンズ、ホテルロイトン札幌等。小樽では、運河プラザやニトリ小樽芸術村にも。道外では神戸と東京の2か所に出店しています。

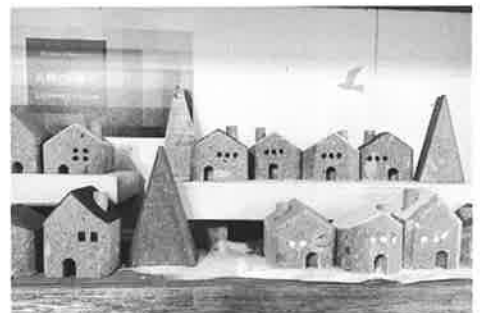
丁度お邪魔した時も、オーダー品で記念として配る店の名前が入った「コースター」をメッセージ付きのカードと一緒に袋詰めし、リボンで結んでいました。軟石は吸収性が高いので、コースターに向いているそうです。でも石だから傷が付くのでは？とお聞きしたところ、裏面には柔らかいエゾシカの皮が貼られていました。これも知り合いの皮職人と相談しながらの共同アイデアです。本当にひとつひとつの手作りで、思いのこもった作品たちでした。



加工作業中



ギャラリー内 小物たち



ギャラリー内 小物たち-2



切出し作業の再現



北海道札幌市南区石山1条2丁目  
9-22

TEL: 090-9425-0573

FAX: 011-351-1071

10:00~18:00

定休水曜 P2台

絵付け体験ご希望の方は事前にお問い合わせください

メールアドレス: nansekiya@gmail.com

ホームページ: <http://212a-a.jimdo.com/>

— あとがき —

札幌軟石の建物は、私が建築士会青年委員会に入った時には既に調査を進めていて、写真（スライド）も沢山撮ってました。さらに街あるきなどをしてまとめた経緯があります。あれから数十年、気が付いたらあの建物も無くなっている。年々壊されて減っていくのが現状です。

工房をopenするにあたって、軟石の空き家を探していたところ、もう壊される寸前のこの物件と出会ったとのこと。この家も待っていてくれたような気がしました。

石なのに温かみのある質感、自然の優しさを感じさせる風合いに、魅力を感じる方も多いのではないのでしょうか。このかわいい雑貨たちを一つでも身近に置いて、癒されてみてはいかがでしょうか。

# 青年のページ

青年委員会 HP : <http://h-ab.com/sapporo/seinen/>

## 「はじめて住教育出張講座を参観して」

青年委員 西田 康人

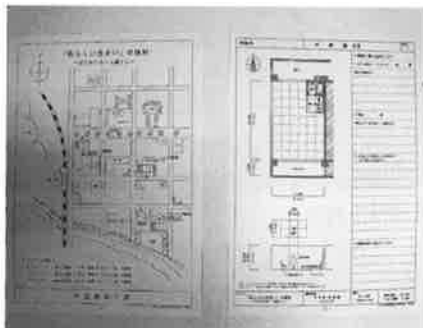
札幌支部住教育特別委員会主催の住教育出張講座が札幌工業高校定時制4年生（8名）対象に行われるとの事で複数の建築士会会員さんと共に参観する事になりました。

8月31日の午後6：45からの3時間25分です。

陽も暮れてきた6時頃、近くにあるグラウンドでは何かスポーツをしている様子でとても活気を感じました。その様な光景を横目に、会場のH型校舎の4階にたどり着きました。すれ違う生徒さんは皆元気よく挨拶をしてくれて次第に気分が盛り上がりました。

教室には道本部女性委員長の工藤さんをはじめ、住教育特別委員会の方々、メイン講師の往田さん、参観者の建築士会会員の方々、そして札幌支部青年から講師として参加している松本さん、河田さんの二人が着々と準備を進めている姿がありました。

皆さん道具を揃えたり、間取りをイメージし易い様に予め床に養生用テープで馴染みの大きさ「サブロク」などを作成したりして着々と準備をこなしています。準備が終わった後、青年講師二人は、微笑みながらも多少緊張した面持ちで生徒



さんと授業開始を待っている状況がそこにありました。

私はといいますと、馴れない環境の中、学校の先生とのご挨拶も程々に和やかな雰囲気の中ではありませんでしたが、多少ドキドキしながら授業開始を待っています。

いよいよ授業開始です。

往田さんの進行でガイダンスから始まります。生徒の皆さんは緊張の面持ちです。時間割説明の後、いよいよ本題に入っていきます。

「私らしい住まい」の設計と題して、住教育テキストの内容に沿って説明が続いてゆきます。地図上の3ヵ所の中から自分に合った環境を選定します。そして、マンションの一室を実際に間取り制作してゆく事になります。

合間に先生に伺ったお話ですと、生徒さんは机上の勉強と模型製作などで施工の実習などをする訳ですが、この後卒業制作に入っていく流れらしく、授業で間取り制作をするのはこれがほぼ初めてだそうです。

なので、とても難しそうな表情を浮かべ、用紙を眺めている生徒さんが多かった印象があります。

また、実際の大きさと間取りのスケール感1/100が解らない様で、床にある「サブロク」を講師と一緒に体感する場面もありました。勿論スケ-

ルも用意して有るので広げたりもしています。

その内、参観している建築士会会員の方も助人として教えたりしていく様になります。私も少し入って見ましたが教えることの難しさを感じました。手を変え品を変え説明しますがなかなか生徒さんの手が進みません。

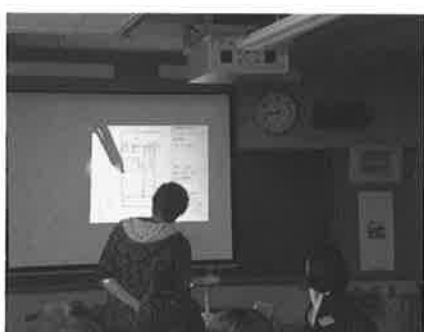
講師の教え方を見てみますと、次第に教える側も熱が入っていきませんが、講師を含む他の建築士会会員の方々は冷静に、かつ優しく笑顔を交えながら丁寧に手助けし続けていました。

やがて終了時間を迎えますが時間が短く感じました。

最後に発表時間です。通常ですとグループごとの発表の様ですが、人数が8名という事もあり、全ての生徒さんに発表してもらいました。

それぞれの生徒さんが自分の作品を携えどのように暮らしているかこだわった点を説明していきます。様々な個性、様々な作品。その作品には生徒さんが精一杯考えた結晶が詰まっていたと思います。

最後になりますが、それぞれの生徒さんには、この業界、楽な事ばかりでは有りませんが、建築のどこかに楽しみを見出して、業界に就職をして活躍していただきたいと私は切に願うのであります。



# 札幌市の景観計画を見直しました。

～平成29年4月1日より運用しています。～

札幌市 まちづくり政策局 都市計画部 地域計画課

## 1 はじめに

札幌市では、昭和56年（1981年）から景観施策を展開し、景観法が制定されて以降「札幌市都市景観基本計画（平成9年（1997年）策定）」と「札幌市景観計画（平成19年（2007年）策定）」に基づき、大規模建築物等の届出・協議や歴史的建築物の景観重用建築物等への指定などの取組を重ねてきました。しかし、近年、人口減少・超高齢社会の到来など、社会経済情勢が大きく変化してきていることに加え、新たに上位計画として平成25年（2013年）に「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定したことなどから、これまでの2つの計画の見直し・統合を行い、平成29年（2017年）2月に、新たに「札幌市景観計画」として策定し

ました。また、これに先立ち、「札幌市都市景観条例」についても、平成28年（2016年）12月に「札幌市景観条例（以下「条例」）」として改正しました。

ここでは、新たな景観計画に位置づけた、理念や目標、主な取組を報告します。

## 2 札幌市の景観施策の主要課題

これまでの札幌市の景観施策は、都市が拡大・成長する中で受動的・保守的に秩序と調和のある都市景観を維持する施策が中心であったと言えます。しかしながら、これからの景観施策では、成熟した都市において、気候、地形、植生などの「自然」や、街並み、道路などの「都市」といっ

### これからの景観施策の主要課題

#### これまでの景観施策は？

都市が拡大・成長する中で、受動的・保守的に秩序と調和のある都市景観を維持する施策

人口減少  
環境・エネルギー問題  
超高齢社会  
オリンピック招致  
新幹線開業

#### これからの景観施策は？

成熟した都市において、景観を構成する要素を幅広くとらえ、能動的・創造的に都市の魅力・活力を向上させるための施策

### <計画の構成>

#### 第1章 目的と位置付け

計画策定の目的や位置付け、計画の前提等について

#### 第2章 札幌の景観特性

札幌の景観特性を「自然」、「都市」、「人（暮らし）」の3つの観点から整理

#### 第3章

景観形成の理念・目標・基本姿勢

#### 第4章 良好な景観の形成に関する方針

全市的視点からの方針  
地域的視点からの方針

#### 第5章 良好な景観の形成に向けた取組

届出協議 景観資源 景観まちづくり 普及啓発

#### 第6章 計画の推進にあたって

計画の推進体制と進行管理について

た要素はもとより、歴史、文化、産業といった「人（暮らし）」の要素も含めて幅広くとらえ、能動的・創造的に都市の魅力・活力を向上させるための施策へと転換していくことが大きな課題という認識の下、見直しの検討を行いました。

### 3 景観形成の理念等

#### (1) 景観形成の理念

札幌市都市景観基本計画の基本理念は「透明感と輝きをもった美しい北の都市をつくりあげる」でした。新たな景観計画では、これまでの基本理念や上記2の主要課題などを踏まえ、

- ・積雪寒冷という北の風土の中で、「自然」と「都市」が近接していることが札幌の大きな魅力の一つ
  - ・今後の景観形成にあたっては、「自然」、「都市」はもとより「人（暮らし）」も景観を構成する要素として幅広くとらえることが重要
  - ・それぞれの要素が相互に調和し、引き立てあうことで多様な魅力を放つ美しい札幌の景観を、市民、事業者、行政等が共に手を携え、創り上げる。
- という考え方にに基づき、以下の理念を定めました。

「北の自然・都市・人が輝きを織りなす美しい札幌の景観を創り上げる」

#### (2) 目標・基本姿勢

上記の理念に基づき、景観形成の目標を以下のとおり定めました。

- ① 札幌固有の景観特性と街の成り立ちを尊重し、秩序と調和のある景観づくり
- ② 地域の個性が際立ち、多彩な輝きを放つ景観づくり
- ③ 多様な主体がつながり、持続的に取組を重ねる景観づくり

また、目標の実現に向けた取組を進めるにあたり、以下の基本姿勢も定めています。

- ア 自然を守り、生かす
- イ 歴史を踏まえ、受け継ぐ
- ウ 札幌の「顔」を創り、磨く
- エ 地域の個性を見だし、伸ばす
- オ みんなが取り組み、広げる
- カ 行政は率先し、支える

### 4 良好な景観の形成に関する方針

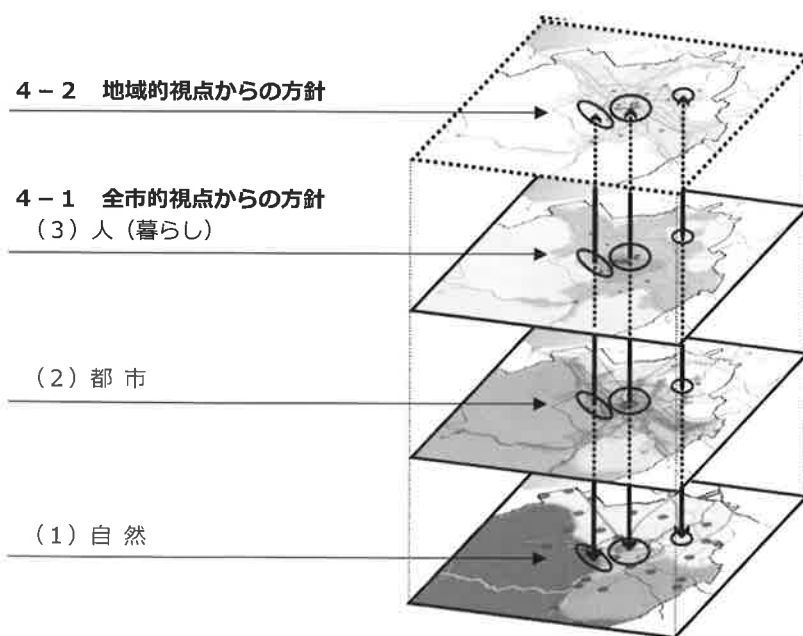
前項までの内容を踏まえ、景観形成の方針（景観法第8条第3項の「良好な景観の形成に関する方針」）を、「全市的視点」と「地域的視点」から示すこととしました。

個々の方針についての記述は割愛しますが、全市的視点からの方針は、「自然」、「都市」、「人（暮らし）」の3つの観点から示すこととし、地域的視点からの方針は、特定の地区の特性を踏まえて、景観計画重点区域<sup>\*1</sup>や景観まちづくり推進区域（5-3参照）等において定めるものとした。

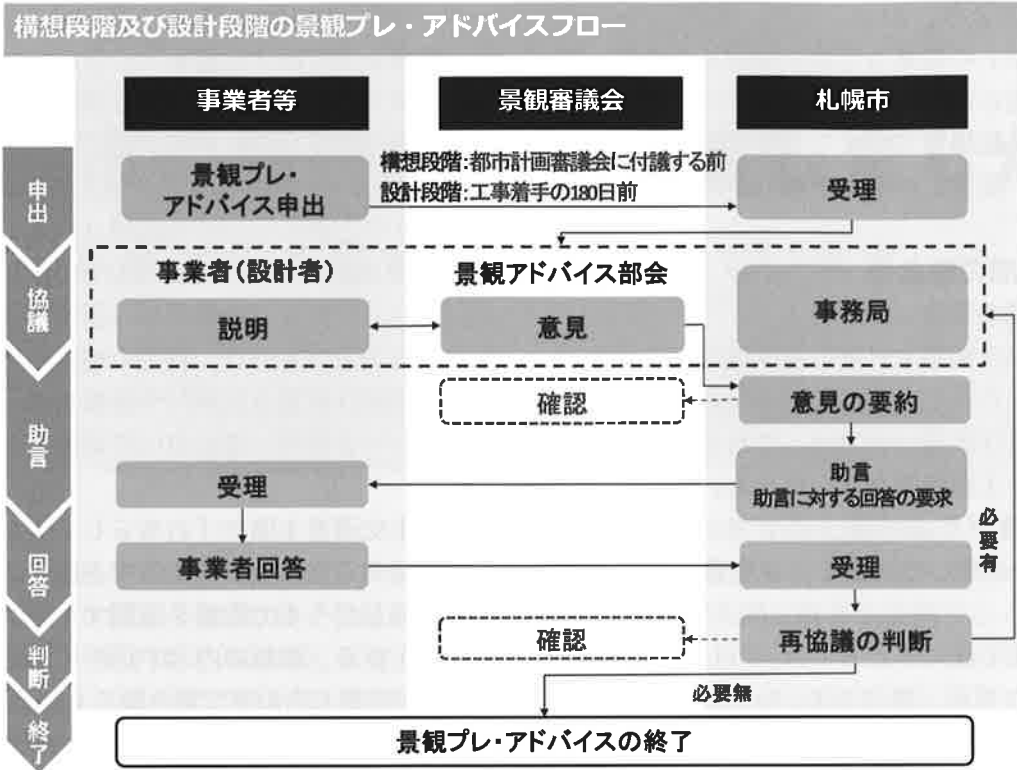
国土交通省主催の「日本らしく美しい景観づくりに関する懇談会」の報告書を踏まえ、「景域<sup>\*2</sup>」を認識したうえで取組を展開することが重要であることから、取組の内容や場所に依りてそれぞれの方針を重ね合わせて読み解くものとしています。

※1：市独自に、景観計画区域の内、地区の特性を踏まえ、特に良好な景観の形成を図る必要がある区域として、都心4地区を指定しています。

※2：同報告書の定義で「地理的、生態的、歴史的、文化的に同様の特徴を有する一定の地域」



景観形成の方針の構成



## 5 主な取組

前項までの内容を踏まえ、良好な景観の形成に向けた取組を、以下の4つの柱で整理しました。ここでは、景観計画に位置付けた取組のうち、主なものを紹介します。

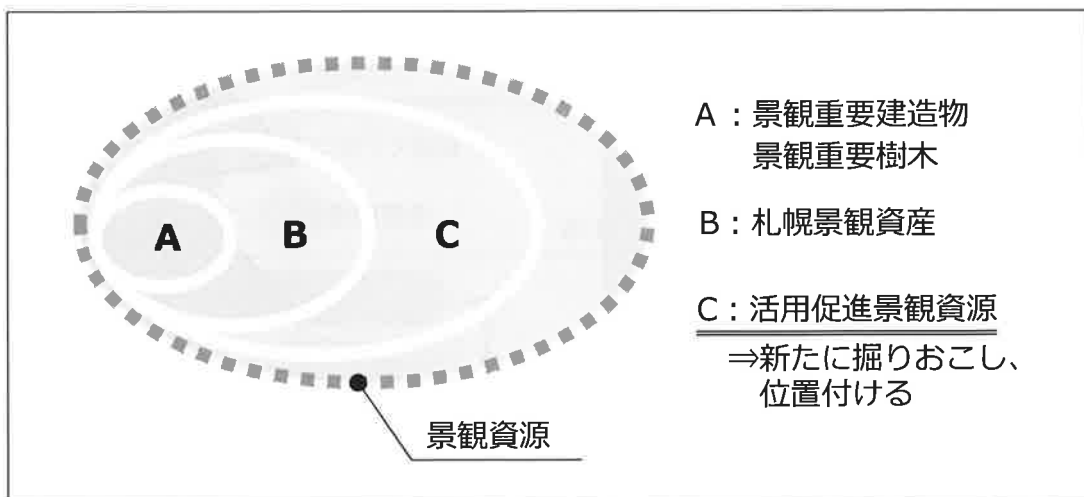
### 5-1 届出・協議による景観誘導

○専門家の関与による協議制度（景観プレ・アドバイス）の導入

景観形成上重要な建築物等について、計画の早い段階で専門家がアドバイスを行う「景観プレ・

アドバイス」の仕組みを位置付け、条例で制度化しました。

具体的には、「制限の緩和を伴う都市計画の決定等が必要となる建築物の新築等」や「景観重要建造物、札幌景観資産の敷地に近接するもの」、「高さ100mを超える工作物の新設等」などについて、都市計画審議会に付議する前や工事着手の180日前までに、専門家と事業者等が意見交換を行い、その結果を踏まえて、市から事業者へ助言を行う制度となっています。



景観資源の体系（イメージ）



### ○届出対象の追加・除外

これまでの届出・協議の現状と課題を踏まえ、景観への影響を適切に考慮した届出対象とするため、以下のとおり届出対象を追加・除外しました。

- ・建築物の壁面の長さ（50m超）を届出対象要件に追加
- ・札幌市立地適正化計画における都市機能誘導区域内での建築物の延べ面積要件を引き下げ（10,000㎡超⇒5,000㎡超）
- ・工作物の築造面積（2,000㎡超）を届出対象要件に追加 など

## 5-2 景観資源の保全・活用

### ○景観上の価値のとらえ方の拡大

これまでの景観重要建造物等の指定は、歴史的価値に主眼を置いてきましたが、歴史的価値に限らず、多くの市民が景観上優れていると感じているものや、シンボル性が高いものといった観点も重視するなど、景観上の価値のとらえ方を拡大することとしました。

### ○景観資源の位置付け

一定の制限を受ける景観重要建造物等の指定制度ではなく、今後の良好な景観の形成に生かすため、市民等に広く周知することに主眼を置いてゆるやかに位置付ける登録制度「活用促進景観資源」を条例に位置付けました。

## 5-3 地域ごとの景観まちづくりの推進

### ○地域ごとの景観まちづくりの多様な展開

これまで、路面電車のループ化をきっかけとして、「ロープウェイ入口」、「西15丁目」電停周辺をモデル地区とし、地域住民と協働で、魅力的な景観の形成に向けた指針を作成するなどの取組を展開してきました。この取組を今後も継続して推進するとともに、他の地区へと展開することとしました。

### ○「景観まちづくり指針」等の制度化

モデル地区での取組を制度の面から支え、他の地区へと展開していくため、地域特性に応じた魅力的な景観を形成するための指針（景観まちづくり指針）にその対象区域（景観まちづくり推進区域）、良好な景観の形成のための基準（地域景観形成基準）、市長に届出が必要な行為（地域届出対象行為）、地域の活動等を定められるよう条例に位置付けました。

これにより、景観計画区域における届出対象行為に加えて、景観まちづくり推進区域内では、景観まちづくり指針に定めた地域届出対象行為について、市長への届出が必要となります。

「ロープウェイ入口電停周辺地区」「西15丁目電停周辺地区」「定山溪地区」の3地区については、平成29年（2017年）6月28日に策定・告示し、7月1日から運用が始まっています。



地域ごとの景観まちづくりの展開イメージ

## 5-4 普及啓発

### ○市民等との協働による普及啓発の取組

子ども向けに都市計画を分かりやすく解説した札幌市発行の本「ミニまち」を活用した都市計画や景観についての教育を、今後も実施します。

また、平成24～26年度にかけて試行的に展開してきた、市民主体の景観資源選出等の取組である「好きです。さっぽろ（個人的に。）」の成果と課題を踏まえ、景カードを使った子どもへの普及啓発の取組など、より多くの市民・事業者等に波及する効果的な取組を検討して実施していくこととしました。



景カード

### ○新たな表彰制度の検討・実施

市民・事業者等が良好な景観の形成に意識を向け、市民・事業活動等の中で自発的取組を行うきっかけとなるよう、良好な景観の形成に資する優れた建築物や活動等を評価する新たな表彰制度について検討・実施することとしました。

## 6 まとめ

札幌の魅力を高めていく上では、良好な景観の形成が重要と考えられます。良好な景観を形成することは、市民生活に潤いや豊かさをもたらし、まちに対する愛着と誇りが醸成されるとともに、観光客の増加や民間投資の誘発など、活力ある地域経済の実現にも寄与するものと言えます。

新たな景観計画は、景観法に基づく届出に関わる事業者や行政だけでなく、市民を含めて全ての人々が良好な景観の形成に向けて取り組む際の一助となるよう策定したものです。

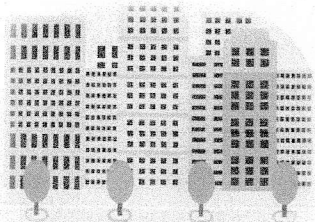
今後、この新たな景観計画を市民・事業者・行政等が共有し、相互に連携して、持続的かつ計画的に良好な景観の形成に向けた取組を推進していきたいと考えています。

問い合わせ先

札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課  
景観係

011-211-2545

※「札幌市景観計画」の本文等については、札幌市HPをご覧ください。



# 「建築・インテリアのプロが描く スケッチパース」講習会

後藤 朋恵

昨年に引き続き9月2日、3日、アトラスデザインスタジオ代表 飯田公久先生（東京在住、札幌出身）に2日間にわたり講習していただきました。

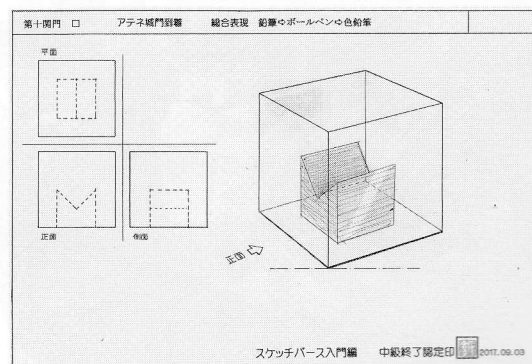
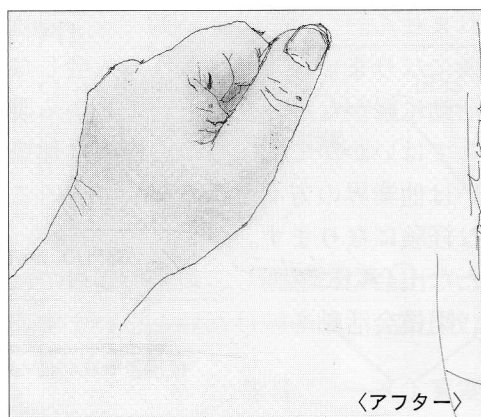
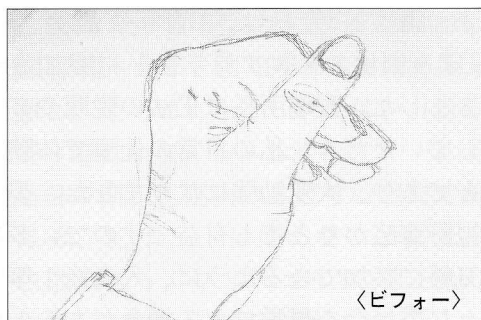
講座は「スケッチパースで絵会話を身に着けよう」がテーマでパース画を作品とするというよりは、クライアントとの打ち合わせの際、または、業者さんに説明する際にパースで絵会話できるようになることが目標です。3DCADが普及してから手描きでイメージ図を表現できる人は少なくなっているのかもしれませんが。参加された方の中には、パース自体を描いたことはあるが、自身の表現力の低さにコンプレックスを持っている方も少なくないようでした。私自身手描きパースを作品として何度か描いていたにも関わらず、絵会話としてクライアントの前で描くのはとても苦手です。

今回、初級は描くことのコンプレックスを取り払って基本的な書き方を学ぶことから始まり、中級では質感（光の表現）の描き方、感覚即描法と言って人前で如何に速く、正確に、そして綺麗に描けることに、駅伝トライアルというサバイバルゲーム形式で挑戦しました。

最後は皆さん、クタクタになるほどハードなトライアルでしたが先生から一人一人合格印を貰って進むゲームですので、ほぼ全員がスキルアップになったことでしょう。

レベル的にはまだこれからですが、絵会話法を自分のものに出来る可能性を感じた講習でした。

（手の絵はビフォー、アフターです。箱の絵は左平面、正面、側面図からガラス箱に入っている木箱を描くという課題でした）



# 委員会活動に参加して

今村 敏彦

私は、昨年20年ぶりに建築士会（以下「士会」）に入会をいたしました。

平成6年に2級建築士に合格し、合格者は必ず士会に入会するものだと思います、すぐに申し込みました。当時、私は不動産販売営業をしておりました。周りの建築士に聞くと、多くの方が士会に加入していないと知り驚いたものです。そのような環境と仕事の忙しさの中、私は総会やイベント、もちろん委員会活動にも参加せず、2年ほど経過した後に退会いたしました。

平成28年、年齢も50台半ばとなり、せっかく取得した建築士なので、不動産業界だけではなく、様々な建築士の方々からの話をお聞きし、広く交流を図りたいと思い再入会する決意をいたしました。

総会や懇親会に出席し、6つの委員会活動があることを知りました。今度は、幽霊会員になりたくないと思い、委員会活動に参加しようと考えておりましたが、どの委員会が私に向いているかは、勉強不足のためよくわかりません。そこで、永年にわたり士会活動をしている松井司郎さんに忘年会の席で相談したところ、その場で情報委員会委員長の森田さんを紹介されたのが、加入するき

かけです。（ちなみに松井司郎さんは、義父の弟さんです）恥ずかしながら、この時には情報委員会がどのような活動をしているか、全く知りませんでした。

皆様ご存じと思いますが、情報委員会では、本誌「街」を年2回発行、「ストリート」は毎月発行し各種の情報提供を行っております。また、会員以外への広報活動や札幌支部ホームページの管理・運営も行っています。現在、14名のメンバーで活動しています。

私の初仕事は、前回の「街」発行の校正でした。委員の方々は、校正やテーマ決定などの編集作業を手際よく進めており、私はその様子に感心するばかりでした。委員会後の懇親会では編集陣のお酒の強さに圧倒されながらも、にぎやかに楽しむことができました。

委員会では、他の委員会のイベントへの参加機会もあります。先日は、「青年委員会」による『さっぽろ創世スクエア見学会』に参加させていただきました。現場所長に工法の説明やビルの案内をしていただき、私の日常の仕事で体験できないことであり、大変勉強になりました。委員会活動は視野が広がりとても有益ですので、多数の会員が気軽に参加できるように、入会后1年間程度は様々な委員会を見学できる機会があると良いかもしれません。

最後になりますが、私のように入会しながら委員会活動に縁がなかった方も、これから委員会に参加してはいかがでしょうか。様々な建築分野、あるいは他業界の方々と深く交流できることは、貴重な経験になります。

新たな出会いに感謝し、新米の委員ではありますが、委員会活動を続けたいと思います。





# JR 一日散歩きっぷ

## 安達 あけみ

全道大会（後志大会）で倶知安・ニセコに参加する為、日帰りしようと交通手段を考えた時3つの案がありました。

1. 自分の車で行く…夜の運転は自信がないので断念
2. バスで行く…懇親会終了後のバスがないため断念
3. JRで行く…行きは倶知安まで、帰りはニセコからとして、

往 札幌7:14発 小樽8:01着 小樽8:05発  
倶知安9:18着 運賃1,840円

複 ニセコ21:20発 小樽22:50 着 小樽23:10発  
札幌23:54着 運賃2,160円

これならOKです。

さて、行く前にSuicaにチャージしてバッチリと思ったけど、そういえば島根大会で使えなかったなと反省を踏まえJR北海道のHPでチェックすると、ICカードが使えない鉄道路線として、函館本線 小樽～余市・倶知安・ニセコ・長万部・函館方面と、絶句です～。しかたない、行くときに切符買って行かなくちゃね。

大会当日の朝、札幌駅のみどりの窓口で再確認したところ、ICカードは使えないけれど、お得な「一日散歩きっぷフリーエリア 2,260円」がありますよ～と教えられました。

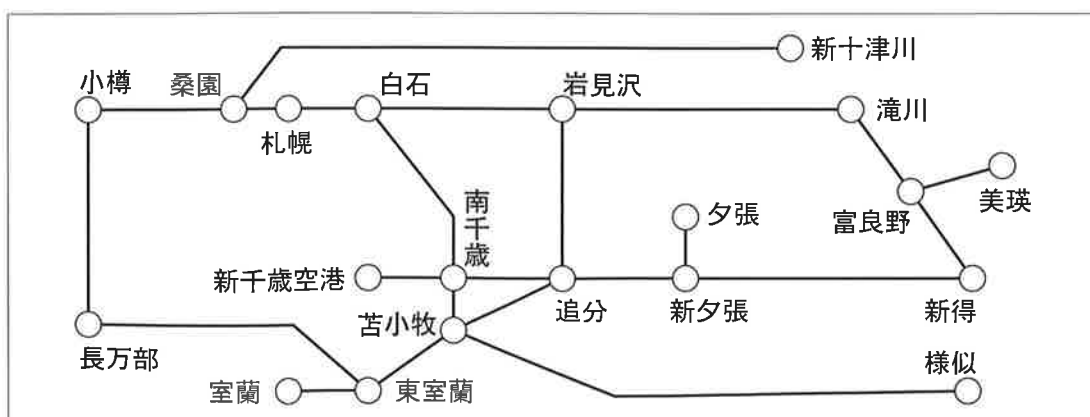
発売期間は2017年4月1日～2017年11月5日の土曜・休日で、ラッキーでした。

切符については事前に要チェックです。

順調に大会も終わり、最後はヒルトンニセコビレッジでの大懇親会です。ホテルのフロントでタクシーを予約し、懇親会へ。JRの時間の都合で大懇親会を途中で抜け、ニセコ駅に向かいました。ニセコ駅（ちょっとかわいい駅舎）に着くと駅員さんがいない。ニセコ駅は17:10以降駅員さんのいない駅でした。列車を待つ人もまばらで、小樽行きに乗ったのは私ともう一人。暗い線路を1時間半走り小樽に着いた時、小樽は明るかったです。

小樽から札幌までは乗り慣れた風景です。でも最終列車だから乗客は、ほんのり酔った人が多い様子です。札幌に着いたらススキノに行こうと相談しているサラリーマン、何故かランニング姿の体育会系男子など。銭函手前までは、日本海を左手に見て進みます。今回の私は、札幌駅一つ手前の桑園駅で学園都市線に乗り換え、新琴似まで行きました。

ここまでも1日散歩フリー切符。今度JRに乗ってのんびり（飲み鉄？）してみませんか。廃線に反対する前に、是非JRを利用しましょう。



# 元気に生きるための 「現代の空気環境」その対策は？

笠原成雄

建築士は、その地域に住む人々の、安全な生活環境を整備するのが役目。

厳しい自然から守り、又、世界の文化の発展にも、遅れをとらない様、最新の技術を駆使して建物を建てる専門家でありたいと願っています。

人間が活性に生きる為には「呼吸」をしなければなりません。空気の絶対量が少ないと必要な酸素を摂取する事が出来なくなります。又、呼吸の結果、不要な炭酸ガスが室内に溜ります。従って、これからは「換気」が最も大切な設備になると考えます。常時「空調」が理想的ですが、お金が掛かります。季節風や空気の自然ドラフト等を利用したエコな「新しい換気方式」の考案が望まれます。

一方、世界人口が急増し、地球全体が汚染され始めました。換気すべき外気も、排気ガスや粉塵が舞い、炭酸ガスを酸素に変えてくれる森林面積も減少傾向にあります。「新鮮酸素の確保、供給」は、これからの建築士の課題となる事でしょう。人間にとって「酸素」こそは健康の源。元気に、そして、聡明に暮らすには欠くべからざるものです。

その対策の一助にと、無い頭を絞って拙文を書いてみました。ご笑読頂ければ幸いです。

## 「金魚鉢の金魚」

一昔前、私達は金魚鉢で金魚を飼っていた。



金魚鉢の水を取り替えないでいると、水中の酸素が欠乏し、苦しくなった金魚は水面に口を開け、

必死に空気中の酸素を吸おうとする。魚は、空気中の酸素を吸う機能性は微弱なのに儂い抵抗をするのだ。

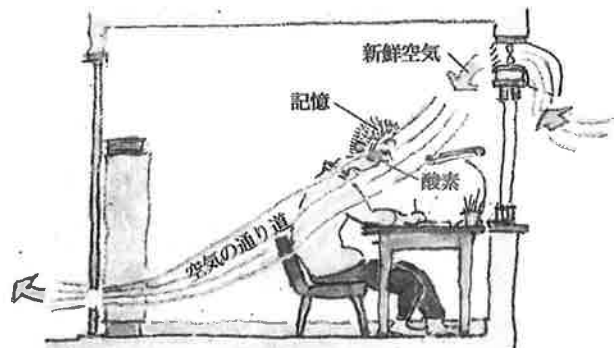
人間も金魚と同じ。酸素が無いと大変！そして、そのまま放置すると死に至る。如何に生物にとって酸素が必要であるかが判る。今は小さな水槽も「ブクブク」即ち、「酸素発生機」を付けて飼っている。現代の人間の場合はどうであろうか？

近年の排気ガスや環境汚染は、極めて深刻な事態となっている。これと戦う方法について考えてみたい。

## 「子供の成績が上がる家」

数十年前、ベビーブームで住宅が盛んに建てられた頃、新聞社の主催で講演会の講師を頼まれた。「エッ、そんな家、ホントに有るの?」。ソレ行けワッショイと、沢山の人が集まった。会場は大入り満員。入りきれない人の為に、スピーカーを外に出して車の中で聞いてもらった。

子供を思う親の心は皆同じ。「息子の成績が上がるなら、どんな事でもしてやりたい」「多少お金が掛かってもイイッ!」「オラの娘も成績上がるべか?」。会場を埋め尽くした聴衆の真剣な眼差しに、講師さんはタジタジ。「勉強部屋は南は暖かくて、子供はすぐ外へ飛び出す、北側が良いでしょう。」から講義が始まった。「家は建てる場所によって“季節風の方向”がそれぞれ違います」



「新鮮空気の通り道に鼻が来るように勉強机を置いて下さい。」「記憶細胞が物を覚える時は酸素を通常より多く必要とします」「酸素を沢山吸えば成績は必ず上がります」。質問相次ぎ、会場は熱気に包まれた。解ってくれたかなあ…

「スウェーデンの赤ん坊」



ストックホルムの2月は、本当に寒い。北緯約60度（札幌は45度）なのに、公園で散歩している人達が居た。その中に乳母

車が何台か居た。覗き込むと、まだ生まれたばかりの赤ん坊。日本では見られない光景に驚いて、押していた女性に聞いてみた。「こんな小さい子、風邪ひきませんか？」「いえいえ、小さいうちから寒さに慣らすんですヨ」

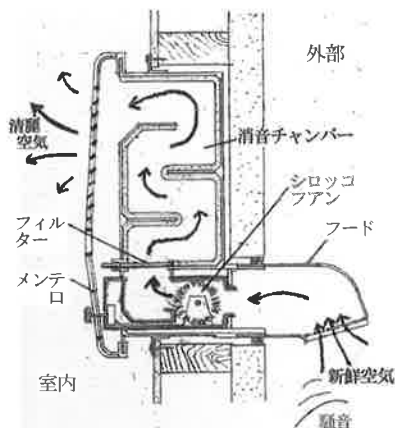
スウェーデンは世界一の福祉国家で社会保障が行き届いている。が、保障に頼っていない。

先ず自分達で体を鍛え、努力している。スウェーデンの人達はサウナで温まり、湖に飛び込んで冷やして体を鍛える。コノ繰り返しは、血行を良くし、新陳代謝を促進する。スウェーデンは2015年、調査した183ヶ国の男性長寿国第4位（日本は6位）でもある。赤ん坊の頃から寒風で体を鍛え、冬に窓を開けても「新鮮空気」が「ご馳走」なのだ。北海道生まれも頑張ろう！

「騒音時代の防音換気孔」

新鮮空気を室内に取り入れる際、市街地では外部の自動車、電車等の騒音も一緒に取り込んでしまい、静かな生活が脅かされるようになってしまった。数十年前、私は、千歳

空港の航空機騒音に対する、防音住宅の設計の際、図の様な「消音チャンバー」を内蔵した「防

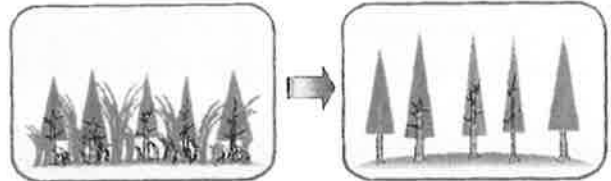


音換気孔」を考案、特許を取った。音は縦波なので、入気経路に吸音材を貼った遮音迷路型の消音チャンバーを設け、換気ファンは最も静かな回転のシロッコファンを採用。有害粉塵を除くフィルターを、取り替えの楽な位置に設けた。又、メンテロから駆動部分をカセットで取り出し易くした。

「北海道の森林育成に一生を捧げた父」

苗の間は、雑草に負ける

丹念に、雑草を刈ってやる



木の苗は、植えてから5年は、「下刈り」（雑草刈り）が、必要。

私の父は新潟生まれ。が、次男坊であった為、青雲の志に燃えて北海道に渡り、北大の林学実科（現：森林科学科）に学び、北海道庁の林務部に奉職した。私は、父の最初の任地、北海道で最も森の濃い、北見地方の興部で生まれた。

父は第2の任地「函館」の森林事務所の所長になった時、北海道で最初となる、木の苗を育てる「苗圃（びょうほ）」を、国道に松並木の有る温暖な気候の「七飯町」に作った。父は毎日忙しくて、私は殆ど遊んで貰えなかった。80年後、私は北海道建築士会の函館大会の討論会に参加した時、父の植えた苗木が、良質の「道産建築材」に成長していて、函館地方の建築士に愛用されている事を知った。この日も、地域起こしの材料として議題になってビックリした。討論会の間中、父が精魂傾けていた毎日を思い出して、目が潤んだ。

父は、もうこの世には居ない。が、木々は逞しく生きていた。

将来を見通し、質の良い道産材の基礎を作ってくれた父の偉業を偲び、遊んでくれなかった事を恨んでいた自分を思い出して、討論会も上の空、心の中で父に詫びた。

「大切にに使わせて戴きます。お父さん！」

※「ゴルフ場八十八か所巡り」や「魚釣り八十八か所巡り」等、独創性あふれる目標で人生を謳歌する、笠原成雄相談役製作のオリジナル小冊子より、抜粋で掲載させて頂きました。

## ≡ 新入会員紹介 ≡

秋山 広 (株)ドーコン  
五十嵐たまき (株)共和建設  
大槻 政洋 (株)ドーコン  
大西 剛教 伊藤組土建(株)  
加藤 峰之 (株)中山組  
川口 幸貴 (株)鈴木東建  
川尻 雅裕 (株)都市総合鑑定  
熊谷 暢克 アイグステック(株)札幌支店  
佐藤 雄太 北海道セキスイハイム札幌支店  
澤田 祥征 札幌インスペクション(株)  
下山 準 (株)ドーコン  
近井 涼 (株)鈴木東建  
外山美喜雄 (株)外山ホーム  
中山 裕之 伊藤組土建(株)  
西山 禎彦 (株)ドーコン  
升田 和幸 日本郵政(株)北海道施設センター  
松澤 誓士 伊藤組土建(株)  
三浦 博 (株)ドーコン  
向井 正伸 (株)ドーコン  
山本 智之 (株)ドーコン

札幌支部 会員数 (平成29年9月現在)

正会員 805人

準会員 60人

合計 865人

賛助会員 71社

## ≡ 編集後記 ≡

今年も残すところ僅かとなりました。寒さも日増しに厳しくなり冬が近づいていると実感する毎日です。

冬と言えばパウダースノーのニセコエリア。今回は全道大会(後志大会)の特集です。

ニセコエリアは近年、世界的リゾート地として変貌をとげ、多様な文化が混在していますが、ニセコらしさの発信として『歴史的建造物の再生とニセコエリアのまちづくりを学ぶ』等、とても興味深い記事が多くありますので、是非ご覧ください。

近代的な建物と歴史的な建物の調和のとれた素敵な街並みになると良いですね。

(情報委員 宮川 耕介)

### 支部だより「街」

2017.No.2

平成29年11月発行

発行一般社団法人北海道建築士会札幌支部

〒060-0042 札幌市中央区

大通西5丁目11番地 大五ビル6F

TEL (011) 232-1843

FAX (011) 222-0924

#### 情報委員会

委員長/森田ゆう子

副委員長/宮川 耕介 柳山美保子

川原 昌彦

委員/内海 純一 安達あけみ

首藤 一弘 星野 里英

岩浪 次郎 後藤 朋恵

片岡 哲二 馬場 将考

多田 幸 今村 敏彦

印刷-中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来

3条1丁目1-34

TEL (011) 781-7501

FAX (011) 781-7516